**大阪府立大学 経済学研究科　リサーチ・ルーブリックについて**

**１　目的**

本ルーブリックは、研究計画及び論文作成の進捗状況について全体を俯瞰し、可視化することにより、院生と指導教員の意思疎通を円滑にし、修士論文をよりよいものとしていくことを目的とする。

**２　性格**

(1) 本ルーブリックは、概ね各専攻分野において使用できるように基本パターンとして作成。

(2) 本ルーブリックの各項目は修士論文の審査基準と関連し、すべてがＢ以上となることが学位論文としての最終的な合格基準であり、審査基準の一部と位置づける。

(3) 本ルーブリックは、論文作成以外の成果についての評価基準は掲げていない。

**３　手順**

(1) 内容説明

ルーブリックの意義・目的と使用法について院生・指導教員に説明。

(2) 利用方法

院生は、ルーブリックの様式を研究科HPからダウンロード。

(3) 自己評価の実施

・院生は、各々個別にルーブリックを使って評価（C・Dの場合は評価理由も必ず記載）。

・院生は、毎年度２回（M1：前期終了時点と後期終了時点、M2：前期終了時点と中間発表時点） 各評価項目をチェック。

(4) 面談の実施

　・院生は自分の評価結果と理由について指導教員に説明。

　　本ルーブリックに基づき指導教員と面談し、修士論文の進捗状況を共有。

・曖昧な点は質問等をして、今後の改善点や課題の明確化を図る。

(5) 院生は、面談の際に双方が合意したものを１部印刷のうえ、経済学研究科支援室に提出。

　　支援室は取りまとめの上、教育推進課と情報共有。

**３　留意点**

・本ルーブリックは論文作成のプロセスそのものではなく、ある程度論文作成が進まないと記入しづらい項目もあるため、指導教員と了解し合い、その旨を理由欄に記入する。

・修士論文提出前には、すべての評価項目がほぼＢに到達していることを指導教員と確認し

合うための面談を実施する。

・各専攻分野により評価しづらい項目は、 指導教員と話し合った上で、未記入可とする。また、専攻分野において、部分的に変更したルーブリックを使用することも可とする。